

高齢者交通運賃助成事業 バス・タクシーの運賃助成制度の存続を求める要望書など
(老人クラブ連合会、全日本年金者組合宝塚支部から提出されたもの)

健康福祉部 高齢福祉課
企画経営部 経営改革推進担当

別紙のとおり

令和 7年 10月 17日

宝塚市長

森 臨太郎 様

『高齢者のバス、タクシー運賃補助の現状維持』

『行政サービスステーションの継続』

『災害時等に備える財政調整基金からの補填の中止』

に関する要望書

署名者数 4, 477名

宝塚市老人クラブ連合会

会長 村山 眞子

要 望 書

平素より宝塚市老人クラブ連合会に格別のご配意を賜り、深く感謝いたしております。宝塚市も我が国の超高齢化社会への突入と同じように、高齢化が進んでいます。このような社会の中で、安心して生活できる社会保障が急務となっております。下記の事項について特段のご配慮を要望いたします。

記

1, 『高齢者のバス、タクシー運賃補助の現状維持』

高齢者のバス、タクシー運賃補助の見直しが検討されていますが、高齢者が公共機関等を利用することで、外出や社会参加の機会が増えます。また、定期的に外出することにより、孤独感や社会孤立を軽減し、精神的健康を促進すると共に、地元の商業施設やサービス利用が促進され、地域経済にプラスの影響を与えます。

上記の見直しは、再度ご検討いただき、現状の維持での運用を要望いたします。

2, 『行政サービスステーションの継続』

行政サービスステーションの廃止が検討されていますが、

高齢者や移動が困難な人々にとって、行政サービスステーションが廃止されると、アクセスが難しくなります。利用が難しくなり、必要なサービスを受けられない人が増え、生活の質が低下する可能性があります。

また、行政サービスステーションを廃止する事で、窓口が中央の施設に集中すると、その施設が混雑し、 サービスを受けるまでの時間が長くなり、住民の不満が高まる事があります。特に、インターネットに不慣れな人々にとって不便になる可能性があります。以上の事から、現状維持で要望いたします。

3, 『災害時等に備える財政調整基金からの補填の中止』

財政基金は災害が発生した際に、迅速に必要な資金を確保できるようにする為のものです。したがって、この基金が無くなると、災害発生直後に必要な支援や復旧活動を迅速に行う事が困難になります。資金が不足することにより、支援が遅れたり、必要なサービスが提供されなくなったりする恐れがあります。災害時に備える財政調整基金が無くなることは、迅速な災害対応の困難化や経済的な不安定を招く可能性が高く、市

民に対して長期的な影響を及ぼすことがあります。以上のことから、災害時等に備える財政調整基金からの補填の中止を要望します。

宝塚 森臨太郎市長様

市 民 相 談 課
広聴カード No. 133
受付 令和7年11月13日 (2025年)

1/2

2025年11月13日
全日本年金者組合宝塚支部

森市長におかれましては、就任早々から困難な大仕事に果敢に取り組んでおられる姿勢に、感服しております。また、細かく市民の声を聞く機会を作り、対話を大切にされている行動に感謝しております。

私たちは今回の行財政改革のご提案に接し、組合員や周囲の人々にも意見を聞いて、なんとしてもこの声を市政に届ける必要を強く感じましたので、署名を集めることにしました。

- ・ 普段は介護施設利用の時に合わせて受診をしているが自宅で発熱した際に緊急で受診する必要がある、この補助券を使えて助かった。
- ・ 受診の時に使っている。特に市立病院に行く際には直接行けるバス便がないので助かっている。
- ・ 買い物の帰りに雨に降られて荷物も多くタクシーを使わざるを得なかったので助かった。
- ・ 公民館に趣味活動に行くのに、荷物が多くて雨に降られると歩けず、タクシーを使っている。
- ・ 子どもに言われて運転免許を返納した。その時は「必要な時は自分が車を出す」と言ってくれたがいざとなると孫のための用事があると言われ、タクシーを頼まざるを得ない。
- ・ 免許も返納し、自転車に乗っていたが、それもこけたので危なくて乗れなくなった。歩いて行ける距離はしれているためタクシーに頼わざるを得ない。
- ・ 母親がずっと使っていた。自分はまだ運転できているので使っていないけど、必要な時に無くなっていたら困る。
- ・ このマンションは高齢者が多く毎日何台もタクシーが来ている。遠くの病院へ行く人は大変。無くさないでほしい。
- ・ 隣の夫婦は受診にタクシーを使わざるを得ない。2人分を合わせても年間で足りなくなる。自分の使わない分を分けてあげたいけれど「記名本人の利用」と書いてあるのでそうもできない。必要な人には必要なだけ使えるようにしてほしい。
- ・ 一度申請したらずっと送ってくる。必要な人だけにしたら印刷代や経費も少しは減らせるのではないか。毎年申請にしても良いのでは？
- ・ 外出中に突然しんどくなったりしたときのために財布に一枚入れている。(財布に一枚の人はたくさんおられました) 去年は一枚使った。今年はまだ使っていない。この一枚があるから、頑張って外出しようと思える。

署名を集める話をしていると、「ぜひ市長さんに伝えてほしい」と言いながら署名してくださる人がたくさんおられます。街頭宣伝でのシール投票では、圧倒的になくなったら困るにシールが集中しました。しかし、「使う人が少ないのにならなくてもいいんじゃないか」という意見も少数ですがみられました。しかし少なくないです。

1/13(休) (申出団体から書課来訪)
(市長氏受取)

当初の目的の「社会参加促進」は、実際には大きく変化して「高齢者のいのちやくらしを守る」ための制度になっています。それは社会状況の変化によるものではないでしょうか。受診や買い物も「社会参加」と言えなくはないですが。コロナ禍で、社会の状況が相当変化したことは確かです。ただ、高齢者が社会参加する機会が増えたかという、そうは思えません。官製の認知症予防や百歳体操などに代表される機会は設けられましたが、圧倒的多数の高齢者が参加しているとは言えない状況ではないでしょうか。そして、そういう機会が出来ていることを知らない高齢者もまだまだ多く存在します。高齢者は情報難民です。

高齢者を取り巻く状況は年々厳しくなっています。物価高騰が続く中でも年金は少ししか上がっていません。定年を迎えて年金を受給するようになってもしっかり働けなければ生活できない高齢者が増えています。そうした人は趣味活動を楽しむより健康を害するとすぐに収入に影響して生活が困窮します。この制度をまだ利用していない人ですが、いざという時に無くなっていたのでは、ますます生活の困難が増えるばかりです。この問題は国政に関わる事でもあり一自治体で解決できるものでないことは明白です。しかしその防波堤になってくれるのが地方自治体ではないでしょうか。そういう点ですぐに成果が出るということではないと思いますが、政府機関とのパイプを持っておられる森市長に期待するところは大きいです。

「世代間の公平性」という言葉を聞きました。(世代間の対立を作るものではないとも言われていましたが。) 私たちが子育てしていた時代には今ほど子ども政策が進んでいたわけではありません。保育所はまさに今高齢者と言われる世代の人たちの「子どもを預けないと働けないから保育所を」との運動によりようやく増えました。今、高齢者福祉が進みすぎているので減らすと言われたら私たちの世代は、いつも予算をかけてもらえない世代になってしまいます。未来の世代に借金を残さないため、という趣旨は分かりますがこれほどに必要とする人がいる制度を無くす理由にはならないと思います。

現金給付が無くなっても交通機関が無くなるわけではないので、移動はできるということです。でも公共交通機関が減っている中でタクシーも減っています。「障碍高齢者」でなくてもそんなに距離を歩けないという人はたくさんいます。行動範囲が狭まることで体力や認知機能の低下を来しやすくなります。また、Personal Vehicleも発達しているとのことでしたが、電動車いすやシニアカーのレンタルには要支援以上の認定と計画が必要になります。レンタル料は1割で月2000～2500円。購入には40万円以上かかります。電動アシスト自転車も10万円以上します。公共交通機関に代わるものにはなりにくい状況です。

こうした状況から私たちは「バス・タクシー運賃助成」の事業を継続していただきたいと願い、254筆の署名を添えて要望いたします。市長と市役所関係課の皆さまが賢明なご判断をされることを切に希望いたします。

11月(月)10:30 杉崎支部長連綿着

「添付署名確認したら745筆ありました」

宝塚 森臨太郎市長様

市 民 相 談 課	
広聴カード No.	138
受付	令和 7 年 11 月 21 日 (2025 年)

2025年11月21日
全日本年金者組合宝塚支部

森市長におかれましては、就任早々から困難な大仕事に果敢に取り組んでおられる姿勢に、感服しております。また、細かく市民の声を聞く機会を作り、対話を大切にされている行動に感謝しております。

先日お届けした署名の追加をお届けします。街頭で署名のお願いをしますと、まだまだご存知でない方が多く、立ち止まり署名をしていただけました。売布で発言した際に広報についての意見を述べましたが、市民に十分な情報提供が出来ていない中で市長としての決断を迫られているという点が、気がかりです。

「世代間の公平性」という観点は、大変難しい課題です。金額が公平であればいいのか、その世代の特徴にどう対応するのか、それが市民にとって「公平」に見えるのかなどなど。そしてこの課題は、えてして世代間の対立を生む事になりやすいです。宝塚市でも 4 人にひとり以上が高齢者です。一人暮らしの高齢者も増えています。一方で子ども世代（15歳未満）は11%。ほぼ3倍の違いがあります。単純比較することはできません。それぞれが抱えている課題もまた全く違ったものです。しかし、その中から共通するものを見つけ出しコラボできる何かを作り出そうというのが、市長が構想されているフレミラ周辺の将来像だと感じています。（違っていませんか？）

「宝塚市には年金収入が少なくても資産を多く持っている高齢者が居る」との発言がありました。もちろんそういう高齢者がそれなりの人数居られることと思います。だから収入での制限は意味がないと言われますが、そうでしょうか。この「バスタクシー運賃助成」の現在での趣旨をしっかりと周知されることで、自立している方は自主的にお使いになられないことを選択してもらえないのではないのでしょうか。当組合員にも生活保護を受給している方もおられますし、資産をお持ちの方もおられます。それぞれにご自身の身の丈に合った生活の中でも、近年は大変暮らしにくくなっているのが実態です。「資産」と言っても人によってその意味は違うでしょう。しかし、今の日本の暮らしの中では、病気なり事故にあった時に困らないためのいくらかの金額と死後（その時含めて）に周辺に迷惑をかけないだけの金額と考えたとき、その「資産」を多く持っていると言えるのでしょうか。個々の金額を確認したことはありませんが、一般的な調査でも大多数の人が持っているものはそうした質のものではないかと思います。私は、その額が目減りしないように日々必死に儉約に務めているのが、今の高齢者の姿と認識していますが、いかがでしょうか？

「利用している人が少ない」から無くしても良いというものでしょうか。この制度「自分が必要になった時に無くなっていては困るから署名する」と言われる方もおられました。この制度を無くした後にそうした心配をしなくても良いような施策をすすめるお気持ちはありますか？9月の市議会でも「代わりの施策は考えていない」

11/21(水) 甲山団休科書課来訪
和書課で後取

と返事があったように覚えています。いま利用している高齢者だけでなく、これから高齢者になりだんだん足腰が弱り移動が困難になった時のことを考える必要があります。人はどんなに抗っても「ピンピンコロリ」は実現しません。人生の最後まで尊厳を持って生き続けるために必要な制度ととらえることが重要です。世の中が変わればこうした制度も必要でなくなる時が来るとは思いますが。

障害4級の医療費削減の問題も対象者の人数が「少ないから良い」というものではないように思います。1億4千万円の削減額。単純に計算してみると、対象となる人の医療費自己負担額が毎月7500円増えるということになりました。この試算、合っているのでしょうか。もし合っているとしたら、大変なことです。市長は説明の中で「身障4級の人は高齢者が多い。それほどの人数はおられない。透析などの人には個別に対応をしたい」と発言されていました。今の高齢者の生活で毎月医療費が7500円増えるとなると、大変なことになります。そういう方は高額療養費でまかなえるから単純に自己負担が増えるということではないということでしょうか。ちょっと説明が不足しているかもしれません。(市外)医師

こうした状況から現段階では今回の行財政改革の提案に対して疑問をいだかざるを得ないと考えています。今回4会場で市民に直接説明されましたが、200人程度の参加者への説明と市HPでの議事公表で全面的に市民の理解を得られたと判断されるのは早計かと思います。もう少し時間をかけて市民に向き合っていただくことを望みます。

これは先日お届けした署名の追加分197筆です。私たちは「バス・タクシー運賃助成」の事業の継続を願って、今後も署名も集めていきたいと思っています。一人でも多くの市民に今回の行財政改革案を知ってもらうためにも必要と考えています。署名などの対話の中で「市役所の中でもっと精査すべき」「市の支出にはもっと削れるものもある」などの意見を聞きました。そうした努力はこの数年市役所内で進めてこられたと個人的には感じているのですが、市民にそのようには伝わっていないかと思っています。

こん回の行財政改革案について当組合との懇談会の開催を切に希望いたします。